

ゆるく楽しくまちを元気に！

千葉県多古町 タコ足ケアシステム

2014年12月26日、商店街の一角にある介護事業所に福祉事業所の職員、商店の店主、役場の職員、数名が集まり始まった「タコ足ケアシステム」の活動。「タコの吸盤に吸い付くように、地域の困りごとを結び付けて解決したい」、「タコ足配線のようにいろいろなヒト、モノ、コトがつながっていくネットワークにしたい」という想いの共にから始まりました。

当時、吸盤に吸い付いた困りごとに、「商店街にお客さんが来なくて、閉めてしまふ店が多い」「ケアに関わる仲間をもっと増やしたい」「より良いケアを地域で提供していきたい」「みんなで学んだり、考えたりする場をつくりたい」などなど。不定期な集まりを重ねながら、メンバー同士の対話やゲストを招いての勉強会をしました。

メンバー同士が少しずつお互いを知るようになると、お互いの困りごとを話すようになります。自分たちが何かできないかと考えるようになります。そこからいくつものつながりが生まれ、少しづつネットワークが広がっていきました。そして、いくつものプロジェクトを通じて困りごとが解決され、たくさんの笑顔が生まれました。

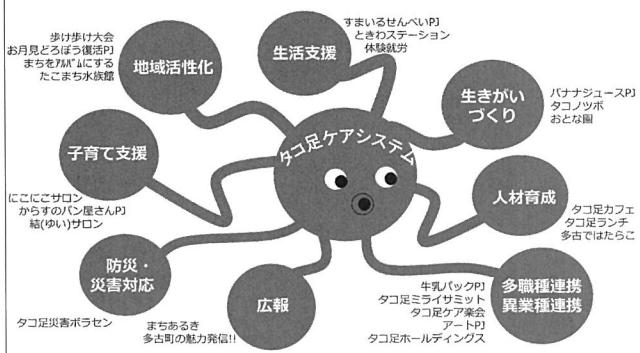
エピソード1

ひかり学園「歩け歩け大会」(平成28年)

施設入所者の健康増進と地域交流を目的として開催されていた社会福祉法人楳の実会の「歩け歩け大会」。開催当初は、施設から隣町の公園までの人の少ない場所を歩く行事でした

タコ足ケアシステム Takoashi Care ～町民15,000人総活躍でまちを元気に！～

タコ足は地域づくりの入口。テーマに共感してつながり、楽しさで地域につなげる。地域のヒト・モノ・コトのつなぎなおして地域の課題を解決！



タコ足ケアシステム～町民15000人総活躍でまちを元気に！～





たこまち水族館ワークショップ

とタコ足メンバーに相談したのがきっかけで、多古新町ハウスの地域交流スペース寺子屋を使って不定期に始まったのが、駄菓子屋たこのつぼ。現在コロナ禍のため活動休止中ですが、多古新町ハウスの利用者さんや近所の方、多古高等学校の生徒など、いろいろな人たちがふらっと立ち寄って自由気ままなひとときを過ごす駄菓子屋さんです。コーヒーブレイクやランチ、時には小さな手芸教室になったり、勉強したり、おしゃべりしたりと様々な人がつながる駄菓子屋さんになりました。地域のみんなが再開を心待ちにしています。

エピソード4 タコ足災害ボラセン（令和元年）

エピソード4 タコ足災害ボラセン（令和元年）

令和元年9月、多古町に台風15号が直撃し、町内全域が停電、断水しました。暑さの中、高齢者や子どもへの影響が大きく、深刻な状況でした。復旧の目途も立たないなか、タコ足メンバーはSNSで被害状況を発信。それを見た町外のつながりから、飲料水や経口補水液、非常食などが多く集まりました。寺子屋を「タコ足災害ボラセン」と名付け、困っている介護事業所や福祉施設、地域の方々へ物品搬送などを行いました。学童保育にはあたたかいおにぎりの差し入れもあり、子どもたちは大喜びでした。社協の災害ボラセンが立ち上がるまで、行政が動けない部分をサポートしてくれました。

紹介した活動のほかにも、商店街のパン屋さんや靴屋さんが、障がいのある方の活動場所を提供したり、商店街の飲食店や商店に施設利用者の絵を飾ったりとヒト・モノ・コトをつないだ地域のネットワーク活動を行ってきました。障がいがある人もない人も、高齢者も若者も、大人も子どもも、できる人ができる時にできることをしながら、ゆるく楽しむまちを盛り上げています。

（多古町保健福祉課 平野香）



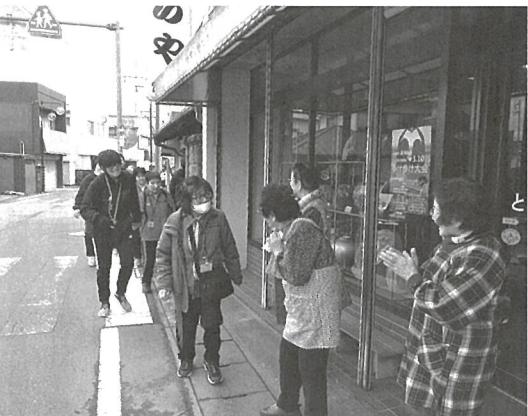
タコ足☆kaigoカフェ



多古ではたらこ



おっちゃんと街を歩きながら福祉を考えるツアー



歩け歩け大会

が、タコ足のつながりで知り合った住民から「そんな山道歩いてないで、街中を歩けよ」と声がかかりました。思つてもみなかつたこの声をきつかけに、町内の神社やお寺、商店の協力で商店街をフィールドとした歩け大会となりました。商店街の各店舗へのあいさつ回りには、施設の職員とともに声をかけてくれた住民と一緒に回ってくれました。総勢300名の利用者さんとスタッフが町内の商店で食事をしたり、買い物をしたり。普段は閑散としている商店街がとても賑やかになりました。回を重ねるごとに一般参加者も増え、地域住民や町外の人も関わる行事になっています。

エピソード2 バナナジュースプロジェクト（平成29年）

「最近おばあちゃんの元気がなくて心配」と相談を受け、タコ足メンバーが思いついたのは、「バナナジュースプロジェクト」。ご本人が長年商店街で営んでいた喫茶店のジュースをみんなに振る舞つてもらう会を地域の拠点で開きました。

ご本人は最初、「楽しみ」よりも「不安」が強かったそうですが、ご家族のサポートもあり、当日に臨みました。タコ足のつながりで集まつた参加者は約10人。参加者のみんななかで開きました。

「おいしいね」、「ありがとう」と言われ、ご本人はとても嬉しくなつたそうです。回を重ねることにご本人が元気になり、ご本人の活動範囲も少しずつ広がりました。5年たった今でも元気に近所の友だちと地域の拠点に通い、おしゃべりに花を咲かせています。ご本人の得意なことを活かした活躍の場をタコ足のつながりでつくつたことで、ご本人が元気を取り戻したプロジェクトです。

エピソード3 駄菓子屋たこのつぼ（令和元年）

地域の二人の女性が「地域で何かやりたい」と



バナナジュースプロジェクト